

循環型社会の形成

クボタグループは、循環型社会の形成に向けて廃棄物のリサイクルやゼロ・エミッションの推進など再資源化や廃棄物の削減に取り組んでいます。

3Rの推進

2008年度の目標と実績

主な活動テーマ

- 廃棄物排出原単位
- 廃棄物排出量
- 埋立比率

2008年度目標

- 前年度比2%削減
- 前年度比2%削減
- 0.9% (国内事業所)

2008年度実績

- 前年度比+5.5%
- 前年度比+1.2%
- 6.0% (国内事業所)

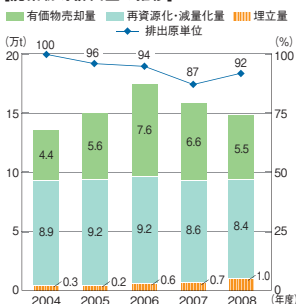
廃棄物排出量

廃棄物排出原単位は、2007年度より5.5%増加し、目標未達成となりました。廃棄物排出量は、94,112tとなり、2007年度より1.2%増加し、目標は未達成でした。この理由は、FWパイプの事業撤退により産業廃棄物排出量が前年度より多くなったためです。

廃棄物の埋立比率

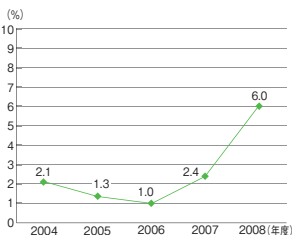
廃棄物の埋立比率は、6.0%となり、目標は未達成でした。理由は、鉄鋼スラグの再資源化委託先の減少およびFWパイプの事業撤退により一時的に埋立処分量が多くなったためです。

【廃棄物等排出量の推移】



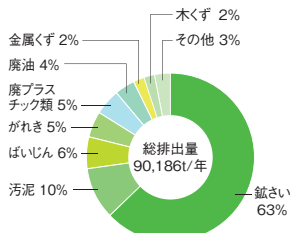
注1: 2005年度までは国内事業所のみ、2006年度以降は海外事業所を含みます。
注2: 排出原単位 (2004年度を100とする) = 廃棄物排出量 ÷ 連結売上高

【埋立比率の推移】 (国内事業所データ)

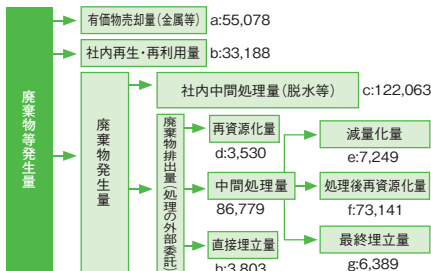


注: 2004～2006年度
埋立比率(%) = 直接埋立量 ÷ 廃棄物排出量
2007～2008年度
埋立比率(%) = (直接埋立量 + 中間処理後最終埋立量) ÷ (有価物量 + 廃棄物排出量)

【廃棄物排出量の内訳】 (国内事業所データ)

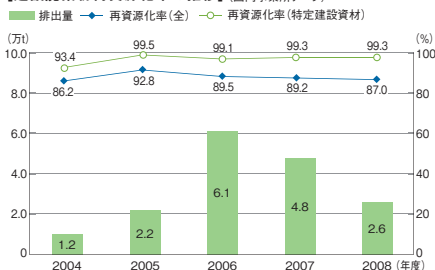


【循環資源処理フロー】 (単位: t/年)



注1: 社外中間処理に伴う流量化量、処理後再資源化量、最終埋立量は委託先への調査結果です。
注2: 流通回収廃棄物372tは除外しています。

【建設廃棄物再資源化率の推移】 (国内事業所データ)



注1: 2005年度まではクボタ本体、2006年度以降は国内グループ会社も含みます。
注2: 再資源化率（全）は特定建設資材廃棄物以外の工事廃棄物も含みます。
注3: 再資源化率 = (有価物 + 再使用量 + 再生利用量 + 流量化量 (熱回収)) ÷ 排出量 (含有有価物)
但し、2006年以前は流量化量に単純焼却、脱水等の量も含みます。